Nipponham Group
人輝く、食の未来

決算説明資料

～2019年3月期　第1四半期～

説明会開催予定日
2018年８月2日（木）
日本ハム株式会社

目　次

Ⅰ．2019年3月期　第1四半期連結業績の総括

Ⅱ．2019年3月期の見通し

Ⅲ．2019年3月期　第1四半期財務データ

Ⅳ．IFRS適用と会計処理変更に関して

※表記について

"US"表記は米国会計基準を意味します。

Ⅰ．2019年3月期　第1四半期連結業績の総括

1. セグメント情報　第1四半期
2. セグメント情報　加工事業本部
3. セグメント情報　食肉事業本部
4. セグメント情報　関連企業本部
5. セグメント情報　海外事業本部
6. 海外　主要所在地別　外部顧客売上高実績

1. セグメント情報　第1四半期

Nipponham Group 人輝く、食の未来

（単位：百万円）

		2017.03.1Q (US)	2018.03.1Q (US)	2018.03.1Q (IFRS)	2019.03.1Q (IFRS)	前年差	前年比（%）
加工事業本部	売上高	81,388	83,228	83,228	84,332	1,104	1.3
	営業利益	1,111	908	1,332	1,333	1	0.1
食肉事業本部	売上高	184,293	193,091	193,101	189,228	△ 3,873	△ 2.0
	営業利益	8,329	12,874	13,690	9,757	△ 3,933	△ 28.7
関連企業本部	売上高	37,709	38,283	38,282	36,544	△ 1,738	△ 4.5
	営業利益	586	489	670	18	△ 652	△ 97.3
海外事業本部	売上高	55,281	55,832	57,010	64,158	7,148	12.5
	営業利益	△ 574	△ 515	△ 167	△ 57	110	-
消去調整他	売上高	△ 66,284	△ 67,137	△ 68,575	△ 69,884	△ 1,309	-
	営業利益	227	160	1,410	2,749	1,339	-
連結合計	売上高	292,387	303,297	303,046	304,378	1,332	0.4
	営業利益	9,679	13,916	16,935	13,800	△ 3,135	△ 18.5

（単位：百万円）
（連結）

（単位：百万円）
（連結）

※セグメント情報のセグメント別売上高と、当資料P.22の品種別の売上高の数値とは一致しません。
※各セグメントの売上高はセグメント間の内部売上高が含まれています。

2. セグメント情報　加工事業本部①

Nipponham Group
人輝く、食の未来

売上高

（単位：百万円）

（単位：百万円）

	2018.03 1Q	2019.03 1Q	前年差	前年比(%)
売上高	83,228	84,332	1,104	1.3

【第1四半期の売上状況】

・既存事業（ハム・ソーセージ、デリ商品）
コンシューマ商品は、ＴＶＣＭ放映やアイテム拡充、商品のブラッシュアップを図り前年を上回った。
業務用は、不採算商品を見直した事で前年を下回った。
既存事業全体では、コンシューマの伸長により前年並みとなった。

・育成事業（ベンダー、市販冷食、物流事業）
新商品投入や新規取り込みにより前年を上回った。

以上により加工事業連結では前年比微増となった。

営業利益

（単位：百万円）

（単位：百万円）

	2018.03 1Q	2019.03 1Q	前年差	前年比(%)
営業利益	1,332	1,333	1	0.1
営業利益率	1.6%	1.6%	-	-

【第1四半期の営業利益状況】

・既存事業（ハム・ソーセージ、デリ商品）
電燃料費高騰や物流コストが増加したが、改善活動や商品集約化による生産性向上で前年より改善した。

・育成事業（ベンダー、市販冷食、物流事業）
売上高は拡大したが、物流コストの上昇や人手不足を背景とした人件費高騰により前年を下回った。

・以上により加工事業連結では前年並みとなった。

2. セグメント情報　加工事業本部②

Nipponham Group
人輝く、食の未来

【営業利益増減要因分析】

	2019.03期		
	1Q 計画	1Q 実績	計画 差異
既存事業	5億円	3億円	△ 2億円
外部要因	△ 4億円	△ 4億円	0億円
（内訳）主原料価格	△ 2億円	△ 2億円	0億円
（内訳）副資材・燃料等	△ 1億円	△ 1億円	0億円
内部要因	9億円	7億円	△ 2億円
（内訳）数量拡大	1億円	0億円	△ 1億円
（内訳）改善活動	8億円	6億円	△ 1億円
育成事業	1億円	△ 1億円	△ 2億円
その他	△ 4億円	△ 2億円	2億円
合計	2億円	0億円	△ 2億円

※四捨五入表記のため、数値の和・差と合計が一致しない場合があります。

【1Q営業利益実績の増減要因グラフ】

●計画差異要因分析（1Q）

【既存事業】＜数量拡大＞　前年並みにとどまり計画には届かなかった。

＜改善活動＞　コンシューマ伸長により品種構成が好転したが、改善活動が計画に届かなかった。

【育成事業】　物流コスト、人件費が想定以上に高騰し計画に届かなかった。

【その他】　全社費用の配賦差などによる。

●主要コンシューマ商品群 売上実績

堅調に推移する
「豊潤®あらびきウインナー」

キャンペーン等で好調な
「中華名菜®」

【（参考）　主要コンシューマ商品群 売上高実績（対前年同期比）】

ハム・ソーセージ	2019.03 1Q実績	デリ商品	2019.03 1Q実績
ウインナー群	101%	チルドベーカリー群	100%
ロースハム・ベーコン群	106%	チルド惣菜群	110%
焼豚群	101%	フライドチキン群	99%
コンシューマ商品計	100%	ﾊﾝﾊﾞｰｸﾞ・ﾐｰﾄﾎﾞｰﾙ群	100%
		コンシューマ商品計	104%

※ウインナー群、ロースハム・ベーコン群は主要商品の合計を記載

●チャネル別 売上実績

①コンシューマ商品
・ハム・ソーセージは、主力の「シャウエッセン」、「豊潤あらびきウインナー」、「アンティエ」を中心に堅調に推移。ロースハム・ベーコン群も伸長した。
・デリ商品は、アイテム拡充や販促強化で主力の「中華名菜」を中心に好調に推移した。

②業務用商品
・ハム・ソーセージは、不採算商品を見直した事で前年を下回った。
・デリ商品は、競争環境が厳しく前年を下回った。

【（参考）2019年3月期1Q チャネル別伸び率（対前年同期比）】

		数量	金額
ハム・ソーセージ	コンシューマ	101%	100%
	業務用	99%	99%
	合計	100%	99%
デリ商品	コンシューマ	105%	104%
	業務用	98%	97%
	合計	101%	101%

3. セグメント情報　食肉事業本部①

Nipponham Group
人輝く、食の未来

売上高

（単位：百万円）

	2018.03 1Q	2019.03 1Q	前年差	前年比(%)
売上高	193,101	189,228	△ 3,873	△ 2.0

営業利益

（単位：百万円）

	2018.03 1Q	2019.03 1Q	前年差	前年比(%)
営業利益	13,690	9,757	△ 3,933	△ 28.7
営業利益率	7.1%	5.2%	-	-

【第1四半期の売上状況】

当社ブランド食肉の「麦小町」「桜姫」をはじめ国産豚肉・鶏肉中心に拡販に努め、販売数量は伸長したが、各畜種とも相場が軟調に推移したことで、売上高は前年を下回った。

【第1四半期の営業利益状況】

生産部門では、国産鶏肉の相場下落が収益を圧迫した。また販売部門でも、国産豚肉の相場の乱高下や、軟調な相場で推移した輸入鶏肉が昨年の高値の反動で苦戦したことから減益となった。

3. セグメント情報　食肉事業本部②

Nipponham Group
人輝く、食の未来

【営業利益増減要因分析】

	2019.03月期		
	1Q 計画	1 Q 実績	計画 差異
輸入食肉市況	△ 17億円	△ 15億円	2億円
国内食肉市況	△ 3億円	△ 4億円	△ 1億円
国内ファーム事業の変動	△ 8億円	△ 13億円	△ 5億円
フード事業の伸長	△ 4億円	△ 3億円	0億円
その他要因	△ 10億円	△ 4億円	6億円
合計	△ 42億円	△ 39億円	3億円

※四捨五入表記のため、数値の和・差と合計が一致しない場合があります。

【1Q営業利益実績の増減要因グラフ】

（単位：億円）

●計画差異要因分析（1Q）

【輸入食肉市況】　鶏肉は市中在庫過多により国内相場が低迷したが、冷蔵豚肉の販売が好調に推移し、全体で計画を上回った。

【国内ファーム事業の変動】鶏肉相場が昨年よりも低水準で推移したことで計画を下回った。

【フード事業の伸長】　厳しい販売環境の中、数量伸長し計画通りに推移した。

【その他】　全社費用の配賦差などによる。

4. セグメント情報　関連企業本部

Nipponham Group 人輝く、食の未来

売上高

（単位：百万円）

（単位：百万円）

	2018.03 1Q	2019.03 1Q	前年差	前年比(%)
売上高	38,282	36,544	△ 1,738	△ 4.5

営業利益

（単位：百万円）

（単位：百万円）

	2018.03 1Q	2019.03 1Q	前年差	前年比(%)
営業利益	670	18	△ 652	△ 97.3
営業利益率	1.8%	0.0%	-	-

【第1四半期の売上状況】
（水産事業）
原料高騰や価格競争激化により鰻や鮭鱒が苦戦したことや、
低収益商品のアイテム削減により販売数量が減少したことで
減収となった。
（乳製品事業）
ヨーグルト・乳酸菌飲料は、バニラヨーグルトやドリンクヨーグルト
は好調に推移したが、スムージーが苦戦したことで昨年を下回った。
チーズはコンシューマ商品を中心に伸長し、増収となった。

【第1四半期の営業利益状況】
（水産事業）
原料高騰に伴う価格改定や、低収益商品のアイテム削減により粗利益率は改善したが、売上高の減少が響き減益となった。

（乳製品事業）
業務用チーズを中心に価格改定が遅れたことに加え、原材料費や人件費、運送費等のコスト上昇をカバーしきれず、減益となった。

5. セグメント情報　海外事業本部①

売上高

※売上金額,営業利益は、セグメント間の内部売上高を消去する前の金額です。
（セグメント間取引の消去があるため、海外計は各地域の合計とは一致しません）

営業利益

（単位：百万円）

	2018.03 1Q	2019.03 1Q	前年差	前年比(%)
売上高	57,010	64,158	7,148	12.5

（単位：百万円）

	2018.03 1Q	2019.03 1Q	前年差	前年比(%)
営業利益	△ 167	△ 57	110	-
営業利益率	△ 0.3%	△ 0.1%	-	-

【第1四半期の売上高状況】
豪州は販売価格の安定と処理頭数の増加により増収となった。
米州は内販拡大や日本向け食肉輸出の好調な推移により増収となった。
アジア・欧州はトルコ エゲタブ社の販売数量が拡大したが、昨年に比べて低い販売価格で推移したため減収となった。

【第1四半期の営業利益状況】
豪州では生体調達コストの低下や好調な販売で赤字解消となった。
米州では食肉仕入価格の安定等による輸出環境の改善などで黒字化した。
アジア・欧州では、トルコ エゲタブ社が販売価格の下落やリラ安による飼料コスト上昇で苦戦した。

5. セグメント情報　海外事業本部②

【営業利益増減要因分析】

	2019.03月期		
	1Q 計画	1Q 実績	計画 差異
豪州	1億円	5億円	3億円
米州	2億円	2億円	1億円
アジア・欧州	△ 1億円	△ 5億円	△ 4億円
その他要因	△ 4億円	△ 2億円	2億円
合計	△ 1億円	1億円	3億円

※四捨五入表記のため、数値の和・差と合計が一致しない場合があります。

【1Q営業利益実績の増減要因グラフ】

※四捨五入表記のため、数値の和・差と合計が一致しない場合があります。

●計画差異要因（1Q）

【豪州事業】　干ばつによる想定以上の生体調達コストの低下や販売価格が好調に推移したことで計画を上回った。

【米州事業】　食肉仕入価格が安値で推移したことや為替レート等の食肉輸出環境が好調に推移したことでほぼ計画通りだった。

【アジア・欧州事業】

欧州の食肉仕入価格が想定より高値で推移したことや、タイにおける鶏肉加工品の輸出数量が苦戦し計画を下回った。

6. 海外　主要所在地別 外部顧客売上高実績

※売上金額は、外部顧客に対する売上高です。

（単位：百万円）

	2018.03(IFRS)					2019.03(IFRS)
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q
豪州	14,422	24,137	20,965	19,275	78,799	21,421
米州	5,043	5,621	5,745	5,239	21,648	5,538
アジア・欧州	6,484	6,645	6,148	6,153	25,430	6,234
海外計	25,949	36,403	32,857	30,668	125,877	33,192
海外売上比率	8.56%	11.24%	9.46%	10.79%	10.00%	10.90%

Ⅱ．2019年3月期の見通し

1. 2019年3月期　営業利益計画
2. 2019年3月期計画（加工事業本部）
3. 2019年3月期計画（食肉事業本部）
4. 2019年3月期計画（関連企業本部）
5. 2019年3月期計画（海外事業本部）

1．2019年3月期　営業利益計画①

	2019.03 上期			2019.03 下期			2019.03 通期		
	2018.03 上期実績	見込み	増減	2018.03 下期実績	見込み	増減	2018.03 通期実績	見込み	増減
加工事業本部	29億円	**37億円**	8億円	30億円	**48億円**	18億円	59億円	**85億円**	26億円
食肉事業本部	255億円	**213億円**	△42億円	217億円	**227億円**	10億円	472億円	**440億円**	△32億円
関連企業本部	12億円	**14億円**	2億円	5億円	**16億円**	11億円	17億円	**30億円**	14億円
海外事業本部	△13億円	**△3億円**	10億円	△34億円	**8億円**	42億円	△47億円	**5億円**	52億円
消去調整他	17億円	**39億円**	22億円	△59億円	**△99億円**	△40億円	△42億円	**△60億円**	△18億円
合計	300億円	**300億円**	0億円	158億円	**200億円**	42億円	458億円	**500億円**	42億円

※四捨五入表記のため、数値の和・差と合計が一致しない場合があります。
IFRSで表示しています。

1．2019年3月期　営業利益計画②

Nipponham Group 人輝く、食の未来

【期初計画との差異】

※第２四半期、上期及び通期計画については、第1四半期時に見直した計画となっています。

	2019.03.2Q			2019.03 上期			2019.03 通期		
	期初計画	見込み	差異	期初計画	見込み	差異	期初計画	見込み	差異
加工事業本部	22億円	**24億円**	2億円	37億円	37億円	0億円	85億円	85億円	0億円
食肉事業本部	118億円	**115億円**	△3億円	213億円	213億円	0億円	440億円	440億円	0億円
関連企業本部	10億円	**14億円**	4億円	14億円	14億円	0億円	30億円	30億円	0億円
海外事業本部	0億円	**△2億円**	△2億円	△3億円	△3億円	0億円	5億円	5億円	0億円
消去調整他	20億円	**12億円**	△9億円	39億円	39億円	0億円	△60億円	△60億円	0億円
合計	170億円	**162億円**	△8億円	300億円	300億円	0億円	500億円	500億円	0億円

※四捨五入表記のため、数値の和・差と合計が一致しない場合があります。

加工事業本部	期初計画との差異								
	2Q			上期			通期		
	期初計画	見込み	差異	期初計画	見込み	差異	期初計画	見込み	差異
既存事業計	**8億円**	**13億円**	**6億円**	**13億円**	**17億円**	**4億円**	**21億円**	**25億円**	**4億円**
外部要因	△6億円	△1億円	5億円	△9億円	△4億円	5億円	△17億円	△12億円	5億円
（内訳）主原料価格	△2億円	3億円	6億円	△5億円	1億円	6億円	△1億円	5億円	6億円
（内訳）副資材・燃料等	△3億円	△4億円	△1億円	△4億円	△6億円	△1億円	△16億円	△17億円	△1億円
内部要因	13億円	14億円	1億円	22億円	21億円	△1億円	38億円	37億円	△1億円
（内訳）数量拡大	1億円	0億円	△1億円	2億円	1億円	△2億円	5億円	3億円	△2億円
（内訳）改善活動	12億円	14億円	2億円	20億円	20億円	1億円	34億円	35億円	1億円
育成事業	**1億円**	**1億円**	**0億円**	**2億円**	**0億円**	**△2億円**	**5億円**	**3億円**	**△2億円**
その他	**△3億円**	**△6億円**	**△4億円**	**△7億円**	**△8億円**	**△2億円**	**0億円**	**△2億円**	**△2億円**
合計	**7億円**	**8億円**	**2億円**	**8億円**	**8億円**	**0億円**	**26億円**	**26億円**	**0億円**

食肉事業本部	2Q			上期			通期		
	期初計画	見込み	差異	期初計画	見込み	差異	期初計画	見込み	差異
輸入食肉市況	3億円	8億円	6億円	△15億円	△7億円	8億円	6億円	14億円	8億円
国内食肉市況	1億円	1億円	0億円	△2億円	△3億円	△1億円	△4億円	△5億円	△1億円
国内ファーム事業の変動	△4億円	△12億円	△8億円	△12億円	△25億円	△13億円	△13億円	△26億円	△13億円
フード事業の伸長	2億円	3億円	1億円	△2億円	0億円	1億円	△8億円	△7億円	1億円
その他要因	△2億円	△3億円	△1億円	△12億円	△7億円	5億円	△12億円	△7億円	5億円
合計	0億円	△3億円	△3億円	△42億円	△42億円	0億円	△32億円	△32億円	0億円

※四捨五入表記のため、数値の和・差と合計が一致しない場合があります。

2. 2019年3月期計画（加工事業本部）

Nipponham Group 人輝く、食の未来

●ギフト販売施策

・日本ギフト大賞「プレミアムギフト賞」2年連続受賞を最大限活用していく。
・『美ノ国』は重ね箱仕様の展開で贈り手と貰い手のさらなる満足度向上を図る。
・『四川名菜』『プレミアム工房』等の惣菜系ギフト商品の販促を強化。

【（参考）　ギフト売上高実績・計画（対前年同期比）】

		2018.03 実績	2019.03 計画
		前年比	前年比
中元	全社販売金額	98%	103%
	(うち美ノ国)	105%	106%
歳暮	全社販売金額	93%	-
	(うち美ノ国)	100%	-
合計	全社販売金額	95%	-
	(うち美ノ国)	102%	-
	(美ノ国構成比)	32%	-

●主要コンシューマ商品群 販売施策

①ハム・ソーセージは、ＴＶＣＭ放映や増量等で新たなファン獲得を図ると共に、定番商品の拡充を進め安定した収益確保を図る。

②デリ商品は、主力商品を中心に更なる拡大を図ると共にラインナップ強化を図り収益拡大を図る。

【（参考）　主要コンシューマ商品群 売上高計画（対前年同期比）】

ハム・ソーセージ	2019.03 通期計画	デリ商品	2019.03 通期計画
ウインナー群	101%	チルドベーカリー群	100%
ロースハム・ベーコン群	104%	チルド惣菜群	104%
焼豚群	102%	フライドチキン群	100%
コンシューマ商品計	100%	ﾊﾝﾊﾞｰｸﾞ・ﾐｰﾄﾎﾞｰﾙ群	100%
		コンシューマ商品計	102%

●チャネル別販売施策

①コンシューマ
・店頭販促を強化し売上拡大を図る。
・エリア企画を拡充し認知度向上とファン獲得を図る。

②業務用
・大型商品の奪取と新商品導入を図る。
・主力カテゴリーにおいて製販連携強化によりライン稼働を向上させる事で収益拡大を図る。

【（参考）チャネル別　売上高計画（対前年同期比）】

2019.03 通期計画（１Ｑ見直し）		金額
ハム・ソーセージ	コンシューマ	100%
	業務用	102%
	合計	100%
デリ商品	コンシューマ	102%
	業務用	102%
	合計	102%

3．2019年3月期計画（食肉事業本部）

Nipponham Group
人輝く、食の未来

●国内生産事業

・飼料価格は生産状況と円安傾向から上昇していたが、下期にかけては生産安定化から落ち着きを見込んでいる。
　とうもろこしや大豆を中心に生産が安定している一方、円安傾向にあることや米中貿易摩擦の動向に注視が必要。
・鶏肉は各社の増産により安定した供給が見込まれる。当社でも飼育生産性を向上させ、安定供給を図る。
・豚肉は猛暑の影響で西日本を中心に生産性の悪化が見込まれるため、下期以降の全国での供給状況は不透明。

●国内食肉市況

・牛肉価格は、供給不足の影響で上昇傾向にある。需要期の年末にかけてさらに上昇する可能性がある。
・豚肉価格は、散発的な病気や不安定な供給から乱高下しやすい傾向にあり、この傾向は継続する見込み。
・鶏肉価格は、安定した供給を背景に昨年に比べ、弱含みでの推移を見込む。

●輸入食肉市況

・牛肉は、アジアを中心に需要が堅調なため高値で推移する見通し。
・豚肉は、北米での増産と安定した需要を背景に価格は安定した推移を見込む。
・鶏肉は、ブラジルの減産の影響が下期にかけて解消され、市況も落ち着く見通し。

●食肉販売（フード会社）

・量販店の新規・深耕販売、都内外食店への商談強化により
　更なるシェア拡大を図る。
・下期にかけて各エリアにてブランド食肉のプロモーションを予定。
　量販店での販促等と連動させ実売に繋げていく。

4．2019年3月期計画（関連企業本部）

Nipponham Group
人輝く、食の未来

●水産事業の販売施策

（マリンフーズ）

・国内外における独自調達ルートの確保を進め、原料調達力の強化を図る。
・高付加価値商品の販売強化や新チャネルへの売上拡大及び商品構成の最適化を進め、収益力強化を図る。

（宝幸）

・生産ラインや商品構成の見直しを進め、収益力強化を図る。

国内産さば原料使用の
「さば水煮」

●乳製品事業の販売施策

（チーズ）

・原料高騰に伴う価格改定を継続する。
・東西２工場において増産体制の構築を進め、コンシューマ商品の販売強化を図る。

（ヨーグルト）

・バニラヨーグルト発売２５周年におけるプロモーション強化を図る。
・ギリシャヨーグルトとバニラヨーグルトにおいて、新フレイバー等の新商品の拡販に努める。

発売25周年を迎える
「バニラヨーグルト」

●主原料・副資材価格動向

・水産品は、漁獲量の減少や世界的な需要増による供給量の減少の影響で高値が継続している。
・チーズ原料は、世界的な需要増から、高値継続の見通し。
・主原料の脱脂粉乳は高止まりしている。

5. 2019年3月期計画（海外事業本部）

Nipponham Group 人輝く、食の未来

●豪州

・肥育：素牛仕入価格の下げ止まりや穀物価格上昇等のコスト上昇が見込まれる。

・処理：集荷環境の悪化から、生体調達コストの上昇が見込まれる。

・販売：販売価格は安定しているが、米国産牛肉の動向には引き続き注視が必要である。

→現在は処理頭数が増えているが、生体集荷の前倒しの状況であると見ており、
今後の供給について不安視される。

【（参考）2019.03　１Q豪州販売実績】

主な販売先国	数量構成比	数量（昨年比）
日本	24%	97%
米国	14%	116%
韓国	10%	120%
中国	12%	232%
台湾	3%	93%
豪州国内	24%	106%
その他	13%	109%
合計	100%	113%

●米州

・食肉輸出は仕入価格が引き続き安値で推移し、安定した収益が見込まれる。

・加工食品は販売競争の厳しさが続き、収益の苦戦が見込まれる。

（単位：千頭）【（参考）2019.03　豪州処理頭数見込み】

●アジア・欧州

・トルコ エゲタブ社は生産性の改善と商品の差別化戦略を進めているが、
リラ安による飼料コスト高が続くと見込まれる。

・欧州は食肉仕入価格の高値が継続し、収益の苦戦が続くと見込まれる。

【2019年3月期　海外事業本部　営業利益増減要因と営業利益額計画】

	営業利益増減要因					
	2Q			上期		
	期初計画	見込	差異	期初計画	見込	差異
豪州	17億円	**8億円**	△9億円	18億円	**12億円**	△6億円
米州	5億円	**0億円**	△5億円	7億円	**2億円**	△4億円
アジア・欧州	△1億円	**3億円**	4億円	△2億円	**△2億円**	1億円
その他要因	△9億円	**△2億円**	8億円	△13億円	**△3億円**	10億円
合計	11億円	**9億円**	△2億円	10億円	**10億円**	0億円

	営業利益額					
	2Q		上期		通期	
	期初計画	見込	期初計画	見込	期初計画	見込
豪州	△1億円	**0億円**	△2億円	**2億円**	2億円	**2億円**
米州	1億円	**△2億円**	2億円	**2億円**	6億円	**6億円**
アジア・欧州	2億円	**3億円**	1億円	**5億円**	6億円	**6億円**
その他要因	△3億円	**△4億円**	△5億円	**△11億円**	△9億円	**△9億円**
合計	**0億円**	**△2億円**	△3億円	**△3億円**	5億円	**5億円**

※四捨五入表記のため、数値の和・差と合計が一致しない場合があります。

Ⅲ．2019年3月期　第1四半期財務データ

1．2019年3月期連結業績概要及び通期計画

2．連結貸借対照表の主な項目、設備投資額、減価償却費

1. 2019年3月期連結業績概要及び通期計画

Nipponham Group 人輝く、食の未来

（単位：百万円、%）

	1Q 実績	上期 実績	通期 実績	1Q 実績	前年比	数量 伸長率	上期 計画	前年比	通期 計画	前年比
売上高	303,046	627,060	1,258,463	304,378	0.4	-	650,000	3.7	1,310,000	4.1
ハム・ソーセージ	30,914	63,954	132,404	30,494	△ 1.4	△ 0.3	67,700	5.9	140,400	6.0
加工食品	54,759	113,064	233,089	55,533	1.4	△ 0.4	118,100	4.5	243,300	4.4
食肉	174,425	360,220	716,343	176,197	1.0	6.3	370,300	2.8	744,900	4.0
牛肉	67,977	146,965	293,287	75,030	10.4	32.1	154,200	4.9	312,500	6.6
豚肉	55,919	113,278	227,186	54,905	△ 1.8	△ 0.2	115,400	1.9	230,200	1.3
鶏肉	44,104	86,757	172,501	39,575	△ 10.3	△ 2.6	87,800	1.2	177,800	3.1
その他食肉	6,425	13,220	23,369	6,687	4.1	0.9	12,900	△ 2.4	24,400	4.4
水産	20,891	45,198	93,804	19,557	△ 6.4	△ 12.0	46,100	2.0	96,600	3.0
乳製品	8,574	17,715	34,191	8,559	△ 0.2	△ 1.0	18,200	2.7	36,200	5.9
その他	13,483	27,509	48,632	14,038	4.1	-	29,600	7.6	48,600	△ 0.1
売上原価	246,752	517,224	1,047,478	250,029	1.3					
売上総利益	56,294	109,836	210,985	54,349	△ 3.5					
売上総利益率	18.6%	17.5%	16.8%	17.9%	-					
販売費及び一般管理費	39,359	79,822	165,155	40,549	3.0					
営業利益	16,935	30,014	45,830	13,800	△ 18.5		30,000	△ 0.0	50,000	9.1
プロ野球選手移籍金	-	-	2,273	-	-		-	-	-	-
その他の収益・費用	1,025	1,436	2,698	1,594	55.5		△ 200	△ 113.9	△ 1,200	-
金融収益・費用	△ 2,493	△ 1,078	928	△ 306	△ 87.7		△ 2,000	-	△ 3,300	-
持分法による投資損益	140	544	1,069	180	28.6		200	△ 63.2	500	△ 53.2
税引前利益	15,607	30,916	52,798	15,268	△ 2.2		28,000	△ 9.4	46,000	△ 12.9
法人所得税費用	5,040	8,783	15,074	4,223	△ 16.2		8,300	△ 5.5	13,700	△ 9.1
税率	32.3%	28.4%	28.6%	27.7%	-		29.6%	-	29.8%	-
当期利益	10,567	22,133	37,724	11,045	4.5		19,700	△ 11.0	32,300	△ 14.4
親会社の所属者に帰属する当期純利益	10,319	21,766	37,552	11,105	7.6				32,000	△ 14.8

＊前年比、数量伸長率は、対前年増減率で表示しております。

2. 連結貸借対照表の主な項目、設備投資額、減価償却費

Nipponham Group 人輝く、食の未来

（単位：百万円、%）

	«連結貸借対照表»	2018年3月期 期末実績	2019年3月期 第1四半期実績	対前期末 増減率	対前期末 増減額
★①	資産合計	734,528	750,069	2.1	15,541
	現金及び現金同等物	58,290	48,294	△ 17.1	△ 9,996
	営業債権及びその他の債権	154,781	155,548	0.5	767
★②	棚卸資産	105,422	123,467	17.1	18,045
	有形固定資産	269,143	272,957	1.4	3,814
	その他の金融資産(非流動)	40,638	40,773	0.3	135
	繰延税金資産	24,772	24,548	△ 0.9	△ 224
	負債合計	311,640	327,088	5.0	15,448
	営業債務及びその他の債務	113,984	122,152	7.2	8,168
★③	有利子負債	111,401	123,015	10.4	11,614
	親会社の所有者に帰属する持分	417,982	418,327	0.1	345
	非支配持分	4,906	4,654	△ 5.1	△ 252
	資本合計	422,888	422,981	0.0	93

主な増減要因

★① **資産合計**　**現金及び現金同等物は減少したが、棚卸資産の増加等で約155億円の増加となった。**

★② **棚卸資産**　**食肉を中心に増加。**

★③ **有利子負債**　**短期借入金を中心に約100億円の増加となった。**

（単位：百万円、%）

«設備投資額、減価償却費»	2018年3月期 第1四半期実績	2019年3月期 第1四半期実績	2019年3月期 対前年増減率	2019年3月期 対前年増減額	2019年3月期 通期計画
設備投資額	5,622	9,355	66.4	3,733	89,900
加工事業本部	1,337	1,822	36.3	485	19,900
食肉事業本部	2,049	3,752	83.1	1,703	38,900
関連企業本部	1,120	2,502	123.4	1,382	12,100
海外事業本部	602	832	38.2	230	15,300
その他設備	514	447	△ 13.0	△ 67	3,700
減価償却費	4,922	5,322	8.1	400	24,000

Ⅳ．IFRS適用と会計処理変更に関して

1. IFRS適用にあたって
2. 連結損益計算書(P/L)への影響 - 2018年3月期通期
3. 連結損益計算書(P/L)への影響 - 2018年3月期上期
4. 連結損益計算書(P/L)への影響 - 2018年3月期下期
5. 連結損益計算書(P/L)への影響 - 2018年3月期1Q

Nipponham Group
人輝く、食の未来

➢IFRS適用と会計処理変更による売上高及び営業利益への主な影響

・2019年3月期第1四半期よりIFRS適用

・2018年3月期はIFRS遡及適用

要因	項目	影響
ＩＦＲＳ適用による	損益計算書における為替差損益の表示	•営業利益には反映せず、その他収益及び費用で表示。
	生物資産の会計処理	•主に食肉の生産事業で保有する生物資産の公正価値評価損益は営業利益に反映。 (米国会計基準では、棚卸資産の低価評価として評価損のみ反映)
	決算期統一	•決算月が３月以外のグループ会社について、仮決算を実施して連結決算に取り込む期間を統一。
会計処理変更による	物流センターフィー等の会計処理	•販管費計上から売上高控除に変更。
	球団の収益及び費用の会計処理	•販管費計上から各損益項目表示に変更。
	セグメント情報における球団損益の取り扱い	•2019年3月期1Qより球団損益の各セグメントへの配賦を廃止し、消去調整で表示。

2. 連結損益計算書(P/L)への影響 - 2018年3月期通期

Nipponham Group 人輝く、食の未来

単位:百万円

2018年3月期通期

米国会計基準		IFRS		差異	主な項目	
売上高	1,269,201	売上高	1,258,463	▲ 10,738	物流センターフィー等の控除	▲ 23,951
					球団売上高	12,252
営業利益	49,218	営業利益	45,830	▲ 3,388	為替差損益	▲ 1,657
					生物資産	▲ 345
					決算期統一	▲ 80
					組替	▲ 1,058
					その他	▲ 248
税引前当期純利益	50,455	税引前利益	52,798	2,343	―	―
当社株主に帰属する当期純利益	37,147	親会社の所有者に帰属する当期利益	37,552	405	―	―

営業利益の項目別影響額　単位:億円

営業利益のセグメント別影響額　単位:億円

●IFRS適用によるセグメント営業利益への影響

消去調整他については、主として為替差損益や組替による。

3. 連結損益計算書(P/L)への影響 - 2018年3月期上期

Nipponham Group 人輝く、食の未来

2018年3月期上期

単位:百万円

米国会計基準		IFRS		差異	主な項目	
売上高	627,880	売上高	627,060	▲ 820	物流センターフィー等の控除	▲ 11,446
					球団売上高	9,988
営業利益	25,559	営業利益	30,014	4,455	為替差損益	▲ 1,769
					生物資産	1,778
					決算期統一	2,791
					組替	1,648
					その他	7
税引前当期純利益	22,326	税引前利益	30,916	8,590	―	―
当社株主に帰属する当期純利益	17,377	親会社の所有者に帰属する当期利益	21,766	4,389	―	―

●IFRS適用によるセグメント営業利益への影響

・海外事業本部では、前期の低価法の戻しなどが影響。消去調整他では、組替などが影響。

4. 連結損益計算書(P/L)への影響 - 2018年3月期下期

Nipponham Group 人輝く、食の未来

単位:百万円

2018年3月期下期

米国会計基準		IFRS		差異	主な項目	
売上高	641,321	売上高	631,403	▲ 9,918	物流センターフィー等の控除	▲ 12,505
					球団売上高	2,264
営業利益	23,659	営業利益	15,816	▲ 7,843	為替差損益	112
					生物資産	▲ 2,123
					決算期統一	▲ 2,871
					組替	▲ 2,706
					その他	▲ 255
税引前当期純利益	28,129	税引前利益	21,882	▲ 6,247	―	―
当社株主に帰属する当期純利益	19,770	親会社の所有者に帰属する当期利益	15,786	▲ 3,984	―	―

営業利益の項目別影響額

単位:億円

営業利益のセグメント別影響額

単位:億円

●IFRS適用によるセグメント営業利益への影響

・消去調整他は、主として組替及び生物資産。

5. 連結損益計算書(P/L)への影響 - 2018年3月期1Q

Nipponham Group 人輝く、食の未来

単位:百万円

2018年3月期第1四半期

米国会計基準		IFRS		差異	主な項目	
売上高	303,297	売上高	303,046	▲ 251	物流センターフィー等の控除	▲ 5,442
					球団売上高	4,928
営業利益	13,916	営業利益	16,935	3,019	為替差損益	▲ 1,023
					生物資産	1,010
					決算期統一	1,951
					組替	904
					その他	177
税引前当期純利益	13,241	税引前利益	15,607	2,366	―	―
当社株主に帰属する当期純利益	9,368	親会社の所有者に帰属する当期利益	10,319	951	―	―

●IFRS適用によるセグメント営業利益への影響

・セグメント別の影響額は主として全社費用の配賦によるもの。消去調整他は主として生物資産。

お問合せ先
〒141-6014　東京都品川区大崎2－1－1
ＴｈｉｎｋＰａｒｋ　Ｔｏｗｅｒ
日本ハム株式会社　広報ＩＲ室
電話：03-4555-8024
FAX：03-4555-8189

見通しに関する注意事項

この資料には、当社の将来についての計画や戦略、業績に関する見通しの記述が含まれています。
これらの記述は当社が現時点で把握可能な情報から判断した仮定及び所信に基づく見通しです。
また、経済環境、市場動向、為替レートなどの外部環境の影響があります。
従って、これら業績見通しのみに全面的に依拠することはお控え頂きますようお願い致します。
また、実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績見通しと異なる結果となりうることをご承知おき下さい。